

学習指導要領改正案 公表

◇学習指導要領改定案の骨子◇

- ・ 小学5、6年の英語を教科化し3、4年に外国語活動を前倒しする
- ・ 小学校のプログラミング教育を必修化する
- ・ 全教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を図る
- ・ 読解力育成に向け小中学校の国語で語彙指導などを拡充する

英語は小3から

プログラミング教育も必修化

文部科学省は小学校で2020年度から、中学校で2021年度から全面实施する教育内容を定めた次期学習指導要領の改訂案を発表した。

「グローバル化」を目指すことを柱とし、現在は歌などを通して英語に親しみ成績評価のない小学5・6年の「外国語活動」を小学3・4年に前倒しする。

小学5・6年では教科に格上げし、授業時間を年間70コマに倍増させる。この結果、小3～小6の授業時間は各学年35コマずつ増え、各校の判断で2018年度からの先行実施も認める。

もう一つの柱には「情報技術への対応」を掲げた。小学校でコンピュータのプログラミング教育を必修化し、コンピュータを動かすための指示を体験するなどして基礎的理解を深めることも盛り込んだ。

改訂案は昨年12月の中央教育審議会の答申を受けて同省が作成した。「脱ゆとり」を掲げ、40年ぶりに授業時間を増やした前回2008年改訂の内容は維持。現行指導要領と同様、「生きる力」の育成を基本理念に掲げ、初めて児童生徒の学び方にも踏み込み、教員による講義中心の授業から、児童生徒が主体的に参加する授業への転換を求めている。

文科省はこれまで、児童生徒が主体的に授業に参加する形式を「アクティブ・ラーニング」と呼んできたが、日本語の「主体的・対話的で深い学び」に改めた。

小学校の英語については3・4年が「聞く」「話す」を中心とし、5・6年は「読む」「書く」を追加する。3年以上は現行より週1時間（一単位時間は45分）授業が増え、中教審で学習する単語は現行の1,200語程度から1,600～1,800語に増やす。

小学校では論理的思考力を身に付けるための学習活動として、コンピュータのプログラミング体験も盛り込んだ。プログラミング教育は教科化せず、総合的な学習の時間などを活用する。身近な電化製品にコンピュータが内蔵され、プログラミングの働きで動くことなどを学ぶ。

昨年12月公表の国際学習到達度調査（PISA）で「読解力」の順位や平均点が下がったことから、国語で語彙を増やす指導も求めた。

改訂案については、文科省が3月15日まで国民の意見を募集し、年度内に指導要領を告示する。

小学校の実施年に当たる2020年の東京五輪・パラリンピックを意識した内容も盛り込まれた。小学校の体育では「きまりを守る」などフェアプレーの大切さを学ぶ際、五輪やパラリンピックについて触れるようにする。

小学校の社会ではこれまで「オリンピック」だけだった表記を「オリンピック・パラリンピック」に変更する。

また、幼稚園教育要領案では、国歌に親しむことが初めて明記された。歌うことを義務付けていないが、文化や伝統に親しむ具体的な方法として「正月や節句など日本の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや日本の伝統的な遊びに親しむ」という一文が盛り込まれた。

現行の学習指導要領は、小中学校ともに「入学式や卒業式で国歌を斉唱するよう指導する」と明記している。